



ゆい 蔭

Yuin 北海道大学附属図書館報

目 次

○図書館機能の高度化と大学の情報基盤 附属図書館前館長 近藤潤一…………… 1	○本学教官著作物…………… 9
○ニュース…………… 6	○会 議……………10
○お知らせ…………… 8	○図書館統計……………11
○研修・講習会等…………… 9	○図書館委員会及び教養分館委員名簿……………19
	○人事往来……………19

図書館機能の高度化と大学の情報基盤——ささやかな展望——

附属図書館前館長 近 藤 潤 一

<最後の仕事>

90号だそうである。

この号が姿を現すとき、わたしはすでに図書館を、そして北海道大学を離れている。感慨無きを得ない。が、それはそれとして、任終わる寸前の、果たし得なかった夢などをいささか書き付けておくのは、求められれば果たさねばならぬ最後の仕事というものであろう。ことにも北方資料室主任山本幾夫編集長は、温和謹厳な風貌で立ち現れるけれども、執筆の応諾や原稿の締切に関しては苛烈をきわめるのが常である。観念せざるを得ないのである。

<図書館の役割>

附属図書館の役割は、おのずから文系と自然科学系とは異なるものがある。文系にあっては比較的伝統的な図書館機能が重視されるが、自然科学系では、極端に言えば研究室から一歩も出ずに必要な学術情報を入手できるのが理想である。ことに最先端部分では、学術雑誌や学会報告資料の全文データベースサービスの提供が実現すれば、各端末から容易かつ多様に検索し、論文そのものにアクセスし、また主題分野に応じて自在に機械に編集させることができるようになる。その本文も、また学会等での発表形態も、きわめて近い将来にマルチメディアを駆使した電子資料によるものが多用されることになるであろう。

その側面を見通して、大学図書館の機能の変化を一口に言ってしまえば、学術情報の全流通過程を通して、その各段階で多様な貢献を期待されるところまで来ている、ということであ

る。従来は、学術情報流通過程の終着点における情報の収集・保管・提供が館の基本的役割であった。しかし、将来、学術情報流通システムにおける中心的ゲートウェイとして変貌する中で、その貢献は学術情報の生産段階にまでコミットしていくことが要求されることになるだろう。

もちろん現在はまだ変化の途次にある。最近の学術審議会学術情報資料分科会学術情報部会の報告「大学図書館機能の強化・高度化の推進について」(1993. 12)の焦点は、「図書館資料の形態や利用方法の多様化に対応できる基盤整備と、高度なサービスを実現するための機能強化が当面の緊急課題であり、その重点的推進が必要と考えられる」というところに当てられている。ここでの提言は多岐にわたっているが、私の見る限りでは、従来言われてきた「電子図書館」機能の充実と、国際・国内研究機関間のネットワークの活性化によるバーチャル・ライブラリーへの志向及び生涯教育への支援を期待する段階にあると判断される。

この三点については、最後の問題には無条件に即応すべきかどうか、かなりはっきりしたけじめが必要であると考えますが、他の二点については、われわれの図書館はつとにその必要を認識し、かつ財政の許す限り、また館員の旺盛な使命感、責任感でカバーできる限り、現在まで最善の努力を傾注してきたところである。その二例だけを指摘すれば、すでに87号所載の一文で報告したとおり、まずワークステーション・ネットワーク・システムへの転換がある。今ごろはすでに仕様決定委員会が活動し、あるいはもう機種選定委員会に引き継がれているかも知れない。1994年度には、他の国立大学に先駆けて新世代図書館システムが稼働しはじめるだろう。これも、若々しい情熱と意欲的な指導力で開発に当たってくれた大場秀穂情報システム課長や、その知恵袋宇野弘純専門員はじめ、システム課の俊英たちの、日夜を分かたぬ努力の結晶である。

このシステムはすでに限界に達した従来の汎用機の性能をはるかに超える能力を持ち、かつユーザーフレンドリーで美しい画面を提供できるだけでなく、今後の必要に応じていくらかでもシステムの変更拡大に対処できるエンドレスシステムである。しかも、それは単なる学術情報の検索画面ばかりでなく、必要に応じて他の教務情報でも、学生生活支援情報でも、すべてを統合して一元的に提供できる能力をもっている。'80年代中期に起こったダウンサイジングの急速な進行、かつてのPCが文房具になり、汎用機とWSの価格・性能の逆転が実現した現在、すでに汎用機はほとんどマンモスの絶滅の危機段階に入っている。われわれの館は、この新システムへの転換によって、いま一步の機器の導入に成功すれば、設備面ではバーチャルライブラリーへの展望を入手したとも言えるのである。ただし、他の大規模大学の遡及入力が行進しない限りは、国内国立大学間の基本的な情報資源さえ活用できないのが現状であるのだが…。

さらに新年度からは、カレントコンテンツの全パート、ケミカル・アブストラクツなどのHINES経由の配信を準備しつつある。これらDB化された二次情報は、単に冊子体をPCやWSでいながらにして検索できるという性質のものではない。多様なアクセス、編集が可能であり、新研究主題に挑戦しようとするれば、機械がその研究史のための論文目録を編集してくれることになる。そんな情報獲得を他の機関にログインしていた際の通信費(情報取得費)に恵まれなかった院生のみならず、あるいは通信費を気にして残留感を抱きつつ検索を打ち切ってきた教官諸公も、これからはHINESを通じて、こころゆくまで無料で検索できることになる。

しかし、館として、これら電子媒体資料を購入する予算はといえば、近年ようやく文部省

配当で新費目に立てられた自然科学系特別図書費に関して申請し得る部分の他は、これも新しく立てられた CD-ROM 購入費 30 万円だけである。そのため館は新年度から予算編成の枠組みを変更して、自然系外国雑誌購入費の返戻分を回したり、文系の学内共同利用逐次刊行物購入費の大幅見直しをお願いしたりして、できるだけ学生用図書費にシワ寄せが行かないようにやりくりして対応しようとしている。まだまだ LAN 対応の電子出版提供ではやりたいことがあるのだけれども、まず実績を積んで、学内世論の十分の支持を獲得できなければ、抜本的な財政的対応をお願いする条件は熟していないと判断されるからである。

<大学全体の高度情報社会化のために、何が必要？>

外国の大学や、国内の私学の一部などでは、大学の体質改善の重要事項として、エレクトロニック・キャンパス化の全学的基本計画と、それにもとづく継続的資本投下を惜しまないでいる。それが今後の大学の死命を制する課題だという認識が普遍化している。ことに研究拠点大学では尖端的な情報環境の整備は不可欠の条件である。そのための統合的な情報処理機構も整備され、その多くは副学長が統括している。全学予算の中から、整備構想の推進のために優先的に予算を投入している。

かつ米国では、いわゆるクリントン = ゴア政策の主要課題のひとつとして、大容量光ファイバー・ネットワークの構築、マルチメディア化情報環境の実現を目標とする社会産業構造の変革が推進され、わが国でも同様の趣旨で、通産省を中心に内閣の主要政策のひとつの柱として、全産業から官公庁に至る高度マルチメディア情報網の構築が大きな政策目標に掲げられている。その趨勢のなかで、現在の歩みでは、もっとも知的な高密度情報社会であるべき大学が、絶海の孤島か、ブラックホールでもあるかのような陥没した空間になって取り残されてしまうかも知れない。目下は、情報処理関連部局は各個ばらばらに問題に対処し、あとは学部ごとの自助努力に任されている。それに限界があることは明らかである。

その観点から、わたしは自分の所属する一般教育等組織専門委員会の報告で、主題からいささかそれることを承知で、特に一章を設けて、研究教育支援体制のシステム化を提唱している。そこではさらに関連機関の提携による人的物的共有を可能とするとともに、全学の情報政策を策定し、推進する統合情報サービス機構の設置が緊要であることに注意を促している。それはまた、近い将来、全学共通の計画的・継続的予算措置を講ずる必要をも念頭に置いての提唱でもあった。

そんな点では前記学術審議会報告でも、今回はじめて「図書館と情報処理センター等との協力」に一章を割いている。これを本学で言えば、まず学術情報面で大型計算機センターと図書館が密接に提携し、全学的視野における情報関連基盤整備に関心を拡大し合うとともに、立案から開発研究の諸側面において問題意識を共有し合うこと、その相互協力を推進し、かつ全学の実現するための共有プラットフォーム及びより高次の管理運営組織の共有が必要となるだろうことを意味する。

当然各部局には固有の仕事と責任がある。しかし、極端に言えば、七大学には、大型計算機センターと図書館はあるが、総合情報処理センターというような統合組織が欠如している、ということが、時折指摘される。これは正しい指摘であるだろう。さいわい大型計算機センターとのこれまでの内々での意見乃至情報交換の段階では、この問題意識の共有は進行しつつあり、遠からず本格的検討が開始される段階に到達できると、私は楽観し、かつ期待している。他大学の例を見ると、大型計算機センターがむしろ主導的である場合もすくなくない。われわれの図書館もまた、この問題に決して消極的であってはならないだろう。夢を言えば、北海道

大学が最初にこの問題の突破口を切り開いてほしいし、その条件は、北海道大学が最も満たしやうい実績を積んでいると思うのである。

<新本館と文系図書館、しかし図書館単独では…>

前に述べたことのある将来構想は、まだこれから幾つもクリアしなければならない全学合意があって、前途、なお多難である。しかしこれが、北海道大学にとっても、全国立大学図書館にとっても貴重な試金石になるという確信はすこしもゆるがない。その意志表示を明確にするためにも、われわれは、概算要求に頭を出しておくつもりである。

新長期キャンパス・プランの定めるメディアセンターゾーンに、新本館を新築する。これは自然科学系研究図書館としてLAN対応の電子図書館機能を集中するとともに、百万冊所蔵可能な完全自動書庫、地下バックナムバーセンターを設置して部局図書室の狭隘化を解消し、資源の共同利用に資するとともに、地域保存図書館機能をも付与する。同時に学内統合情報流通体制に組み込まれた重要なゲートウェイたらしめる。そこでは大学全体の情報システムとの施設・機能との連携の場としての役割をも持たせる。さらに海外・国内の研究機関を結ぶ学術情報流通システムを積極的に活用した研究支援の中心たらしめる。第二に、全学教育に関する総合的な学習図書館機能を持たせる。第三に、図書館の本部機能をも果たす。

これと一体化する構想として、現在の本館を人文社会系研究図書分館に改造する。これにより各学部の破局的な図書の所蔵状態を解消し、業務の統合を推進し、閲覧環境を研究室、書斎に近づけることで、いっそう資源の共同利用体制を実現できるだろう。これは新本館新営の不可欠の前提であるから、とりあえずは館内の資料収容能力を増強するとともに、各課事務の効率化をはかることを考慮しつつ、大改修計画について概算要求する。この方は今年度中にも実現することを期待しているところである。

これらのプランについては、なお、全学教育センターの施設計画、学内情報統合機構の設置、キャンパスプランの最終決定等、要求の実現にとって未解決の問題が積み残されているため、現状では概算要求も熟度の高いものとは言えない恨みがあるのは事実である。しかし、館は、今後も全学の支援と関心を喚起しつつ、この将来構想を基礎として諸種の政策を打ち出して行くことになるだろう。

<退任に当たって>

さて、そろそろ、この場を借りて退任のあいさつを申し述べることを許していただいてもいいかと思う。五年間の在任期間をふりかえってつくづく思うことの一つは、第一に、館のあり方について今村成和館長が定められた基本構想が、現在なお館の歩みに対する指導原理として機能していることだ。現象的には激変した面が多いけれども、大学図書館のあり方に関する先生の構想は、ほとんど予言的でさえあった。改めて洞察の深さに打たれる思いがある。次に、大野公男前館長の卓越した指導力が、今日の館の姿を作ったことに対する尊敬。これはわたしの前任者でいらっしゃったからことに印象が強いということもあろうが、当時、電算機導入の際に、あくまでも利用者本位のクларク検索を構築して一挙に端末100台を稼働させると同時に、まだ夢と言われたCASE2方式を開発してただちに遡及入力体制を組織し、その資金を導入するという画期的出発を遂げたことは、他大学からは不可能なこと、あるいは無謀なギャンブルとまで言われた野心的な事業だった。結果として先生は正しかったし、北海道大学が意欲的に進めている業務を、他大学がまだ着手もできていなかったり、すくなくとも一周以上遅れていたという現実には、この当初の構想力の差から出てきたものだと思う。

それを思えば、わたしがなしたことは寥々たることだったかと思う。わたしができたこ

と云えば、先生の路線を継承しつつ、新たに LAN 対応の方策を具体化しつつ、諸種の懸案に解決の糸口を模索したことだけだったような気がする。にもかかわらず、現在、北海道大学図書館は、国立大学図書館の間では野心的な領導者として一目も二目も置かれる位置にいる。若い方たちの評判でも、いまもっともおもしろいのは北大だという定評が出来、事実北大図書館を志望する館員はすくなくない。

これは、あげて北海道大学の館員のみなさんの努力とチームワークのおかげである。私は、館に来るまで、毛筆は持っても、キーボードには触ったこともなかった。わたしが打ち出した方策は、館の部課長や掛長さんたちが策定したものの統合である。そう見えないものがあったとしても、それは素朴なユーザー代表の私の希望や夢を、具体化してくれた館のみなさんの力である。わたしはただ、みなさんの仲間に加えてほしいと願い、ときおり、あるいはしばしば迷惑がられながら、結局強引に仲間入りさせてもらったただけだったろう。今更ながら、館員諸賢の寛容に感謝するばかりである。

去ろうとして思う。図書館はわたしの誇りであり、愛であり、そして家庭でさえあった。館長室の窓外には、野薔薇の一株がある。芸術家の桜庭恒弥受入掛長が剪定してから、にわかには旺盛に花がつくようになった。当然実が満ちるようになった。この冬、毎日小鳥たちが来るので、ちょうど玄関ホールの木彫類を制作してくれた桜庭さんが、さっとボードテーブルを作って立てた。以来、一日中絶え間なく野鳥がくる。四十雀、五十雀、山雀、嘴太雀（ハシトガラ）、深山懸巢、鶇、赤げら、鶇、そして雀鷹（ツミ）が雀を捕食する光景まで、目前で見られた。庶務の長尾憲子主任が、金井孝事務部長と毎日各種の餌を給している。なんだか常連の鳥たちは肥えたような気がする。みんなやさしい人ばかりだ。部長は、図書館行政では断然日本一のライブラリアンである。だがその他でも文学・哲学の豊かな学殖はもちろん、驚嘆すべき多趣味の教養人である。ことに猛烈な喰いしんぼうゆえに料理に関する博識と腕前は、ほとんど超絶的に見える。そのレシピの豊富さ、包丁の腕の見事さに堪能しながら、酒杯を傾けて話す他愛ない雑談で、話題がたまたまふたりの共通の主人公たち、たとえばスペンサーシリーズの、あれは断然ホークがいいですね、とか、カッセラーの NUMA、あれはダーク・ピットよりジョルダーノが好きです、とか話していると、突然三好達治の詩や中原中也のが暗唱されたりする。「先生、無頼館長ですよ」などと言われるとなおうれしい。もちろん「戦艦バウンティの反乱」のプライ艦長に引っかけてのジョークだから、油断がならない。そんなとき、わたしたちは限りなく感傷的に少年時代に帰っているのだ。なんというすばらしいめぐりあいだったのだろう。

こんな挿話を語りだしたら、もうきりも果てしもない。

このキャンパスの木、空、草花、鳥、そして人。図書館でめぐりあったすべての方々から感謝しながら姿を消すことができるのは、私の忘れ得ぬ幸福というものである。わたしは北海道大学での最後の生活で、こんな幸福な人生を贈ってもらえたのである。

(本稿を拜受したのち、金井事務部長は6月31日をもって勇退されました。また庶務掛長尾憲子主任は、4月1日付けで、農学部附属演習林の事務主任として転出されましたことを申し添えます―編集委員会より―)

◆ ニュース

○ 「日本北辺関係旧記目録」のデータ入力が終了しました

平成5年度科学研究費補助金の交付を受け作業を進めていた「日本北辺関係旧記目録」(約5,300件)の入力作業がこの3月に終了しました。科学研究費補助金は今年度も交付内定を受けており、残りの4冊(「明治大正期北海道写真目録」「開拓使外国人関係書簡目録」「北海道関係地図・図類目録」「旧外地関係資料目録」)のデータ作成を行う予定です。

この作業は「北方資料データベース」計画の一環として行っているものです。この計画は文字情報ばかりでなく写真などの静止画像、蠟管などの音声、ビデオなどの動画を統合したマルチメディアのデータベースとして構築しこれを学内LAN:HINESを通じての学内研究者はもとよりSINET, INTERNET上の国内外の研究者へ提供するもので、これに要する設備は概算要求中です。

「北方資料データベース」は、①メディアの統合による高度な研究支援機能、②エキスパート・システムの実現、③資料を電子形態で蓄積・利用することによるオリジナル資料の長期保存に資すること、④SINET等ネットワークを通して提供することによる内外へ向けての情報発信サービス等様々な効果が期待できます。なお、附属図書館では、パソコンにより「北方資料データベース」のプロトタイプを作成しており、業務などでの運用が予定されています。

○ 平成5年度北海道大学図書館講演会が開催されました

講演：「今後の図書館サービスのあり方について—アメリカの諸大学の事例—」

講 師： 東北大学 佐藤義則氏

開催日： 平成6年3月17日

佐藤氏は、平成5年3月から9月までの半年間、文部省の在外研究員としてアメリカとイギリスで研修された。今回の講演では特に、3カ月滞在したイリノイ大学アーバナ・シャンペン校 (University of Illinois at Urbana/Champaign) における図書館サービスを中心にお話があった。

イリノイ大学は学生数3万5千人、図書館は35部門に分かれている部門制図書館であり、蔵書数は820万冊(全米第3位)、雑誌9万1千タイトルを所蔵している。サービス時間は朝8時から深夜1時までで、年間の相互貸借数は20万件にのぼる。職員数は400人(うちライブラリアンは140人)である。

ILLINETによってイリノイ州にある大学図書館の蔵書の相互検索が可能になり(1981年)、相互貸借量が大幅に増加した。相互利用にかかる料金は基本的に図書館が負担し、州内の相互貸借は無料である。ユーザーに課金するときも上限(1,500円程度)を決めている。ただし予算が限られているので、どこまで出来るかわからない。また、FAXで文献を送付することも行われている。

大学内のコンピュータの利用環境はかなり整備されている。システム開発のオフィスであるAISSには図書館システム専門チームがあり、システムの開発にあたっている。業務システ

ムは日本の方がよいが、利用者サービスでは大きく進んでいる。院生ではほぼ全て、学生でもかなりの数がパソコンを所有しており、学生が自由に利用できるコンピュータサイトがあるなど、利用をサポートするための体制も充実している。

講演：「次期図書館業務電算システムについて」

講師：大阪大学 大西直樹氏

開催日：平成6年3月17日

この講演は、現在大学図書館が直面している次期システムについて、①何故、今「次期システム」か、②次期システム像、③次期システムの検討課題、という3本の柱により説明がなされた。

何故、今「次期システム」かについては、大学ごとの個別開発の限界やメーカー作成のパッケージシステムの問題をあげたが、一番の理由としては、小型計算機の能力や分散処理技術の向上による電算機環境の急激な変化をあげた。

また、次期システム像については、業務中心から利用者サービス中心にすること、特定メーカーに拘束されないシステムにすること、標準化すること、大学独自機能実現への柔軟な対応や図書館や大学の枠を越えた情報流通が必要だと述べた。

最後に今後の検討課題として、①システム開発の方法、②急変する電算機環境との関係、③図書館の利用者ニーズに対する役割、④図書館提供情報の充実、⑤マルチメディアへの対応、というこの5点が検討課題としてあげられた。



◆ お知らせ

○ CD-ROM マルチ検索システムの MEDLINE をフルセット備えました

附属図書館では、かねてから要望のあった CD-ROM マルチ検索システムの MEDLINE をフルセット (1966 年—現在まで) 購入し、その内の過去 12 年分を平成 6 年 6 月 6 日から検索サービスに提供しました。

HINES を経由して提供する CD-ROM マルチ検索システムデータベースは以下の通りとなります。(ただし、提供する範囲の年次は、1994 年現在のものです。来年以降、年次は 1 年ずつ繰り上がります。)

データベース名	提供する範囲
MEDLINE	1994—1983 年 (1994—1989 年, 1988—1983 年の 2 つに分けて提供します)
BIOSIS	1994—1992 年

なお、機器の関係で HINES を経由しては、過去 12 年分までしか提供できません。1966—1982 年までのデータの検索を希望される方は、附属図書館参考閲覧室でご利用になって下さい。

このことにもなつて、1988—1983 年までのデータを検索するには利用者側のバッチファイルと、メニューファイルを修正することが必要となります。すでに利用箇所 of 代表者・連絡担当の方へは HINES のクローズドフォーラムでご案内しておりますが、ご不明の点等ありましたら情報システム課情報処理掛 (内線 4025, または hines の電子メール 2524: LIB) までご連絡ください。

ILL (図書館間相互貸借) システムから BLDSC (British Library Document Supply Center) への依頼機能の運用開始のお知らせ

附属図書館では、5 月 20 日より、NACSIS-ILL から BLDSC へのオンラインによる直接依頼機能の運用を開始しました。これは学術情報センターにより開発された機能で本年 4 月より利用可能となったものです。このことにより従来郵送等により行っていた依頼を ILL 端末より直接 BLDSC へ申し込むことが出来ることになり、大幅に原報入手時間の短縮が計られることになりました。なお、附属図書館への申込方法は従来どおりです。お尋ねになりたいことがありましたら、相互利用掛 (内線 4095), または参考調査掛 (内線 2973) へお問い合わせ下さい。

◆ 研修・講習会等

○北海道大学図書館オンラインシステム新任担当者実務研修

平成6年4月12日(火)~22日(金) 場所: 附属図書館

- 端末基本操作研修 4月12日(火) 13:00~16:30
担当: 情報処理掛 受講者15名
- 目録管理システム研修 4月13日(水)~15日(金) 9:00~16:30
担当: 目録情報掛 受講者8名
- 雑誌管理システム研修 4月18日(月)~20日(水) 9:00~16:30
担当: 学術情報掛 受講者7名
- 検索・閲覧システム研修 4月21日(木) 9:30~12:00
担当: 資料サービス掛 受講者12名
- 図書管理システム研修 4月21日(木) 13:00~16:30
担当: 図書受入掛 受講者5名
- ILL管理システム研修 4月22日(金) 9:00~16:30
担当: 相互利用掛 受講者12名

◆ 本学教官著作物(本館・分館受贈分)

本学教官の方々から附属図書館に下記の著作図書をご寄贈いただきました。

[本館]

○名誉教授

山崎 岐男(訳) 放射線防護の父 シーベルトの生涯 考古堂書店 1994

○文学部

井上 勝生 幕末維新政治史の研究 塙書房 1994

松川 健二 論語の思想史 汲古書院 1994

○経済学部

吉見 宏(共著) 会計利潤の計算方法 同文館出版 1994

黒田重雄(共著) 現代マーケティングと流通のフロンティア 発達疫学研究所出版部 1994

[教養分館]

○文学部

新田 孝彦 カントと自由の問題 北海道大学図書刊行会 1993

附属図書館では、本学教官著作物をできる限り収集するようつとめております。今後とも、よろしくご協力下さい。

◆ 会 議

第 154 回 図書館委員会 <平成 6 年 3 月 24 日 (木)>

議 題

1. 平成 7 年度概算要求事項について
2. 附属図書館備え付け資料の購入計画について
3. そ の 他

報告事項

1. 外国雑誌の契約について
2. そ の 他

第 114 回 教養分館委員会 <平成 6 年 4 月 27 日 (水)>

議 題

1. 平成 5 年度教養分館図書費決算について
2. 平成 6 年度教養分館図書費要求額 (案) について
3. 資料等選定小委員会の選任について
4. そ の 他

報告事項

1. 平成 5 年度分館委員会の審議経過
2. 附属図書館教養分館の概要説明
3. 平成 6 年度前期「分館演習室」の利用申込について
4. 諸会議報告
5. 分館の改修・機器更新等について
6. 整理済み図書及び受入れ未整理図書の保管場所について
7. 教養部所蔵図書の附属図書館 (教養分館) への管理換えについて
8. 大学祭期間中の夜間開館中止について

平成 6 年度 国立大学附属図書館事務部課長会議 <平成 6 年 5 月 31 日 (火)>

場所: 東京医科歯科大学

議 題

大学図書館の当面する諸問題について

第 26 回 国立大学図書館協議会北海道地区協議会 <平成 6 年 4 月 14 日 (木)>

場所: 北海道教育大学

協 議 題

1. 北海道大学図書館講演会について
2. 平成 6 年度 NACSIS-IR 講習会 (地域講習会) の開催について
3. 平成 6 年度目録システム講習会 (地域講習会) の開催について
4. 第 41 回 国立大学図書館協議会総会関係について
5. 次期当番校について

報告事項

1. 平成 5 年度全国図書館大会大学図書館分科会について
2. 北海道図書館連絡会議について

◆ 図書館統計

○ 平成5年度 部局別蔵書冊数

(平成6年3月31日現在)

部局	和書	洋書	合計	備考
附属図書館	561,487	452,014	1,013,501	
法学部	(74,637)	(132,458)	(207,095)	
経済学部	(54,186)	(30,344)	(84,530)	
教養分館	128,547	79,767	208,314	
言語文化部	(20,918)	(63,112)	(84,030)	
文学部	104,490	138,528	243,018	
教育学部	80,447	30,062	110,509	
経済学部	4,791	2,133	6,924	
理学部	48,290	150,925	199,215	{情報処理教育センター, 実験生物センターを含む
医学部	66,830	95,102	161,932	{附属病院, アイソトープ総合センターを含む
歯学部	17,401	17,245	34,646	附属病院を含む
薬学部	5,959	16,326	22,285	機器分析センターを含む
工学部	178,175	146,968	325,143	
農学部	205,821	115,601	321,422	附属農場, 附属演習林を含む
獣医学部	11,148	22,162	33,310	
水産学部	77,956	50,014	127,970	
教養部	15,352	7,421	22,773	
大学院地球環境科学研究科	10,528	6,107	16,635	
低温科学研究所	7,733	17,910	25,643	
電子科学研究所	6,014	18,931	24,945	
免疫科学研究所	1,484	7,386	8,870	
触媒化学研究センター	3,348	11,742	15,090	
スラブ研究センター	829	16,069	16,898	
大型計算機センター	957	2,034	2,991	
事務局	1,824	156	1,980	保健管理センターを含む
医療技術短期大学部	23,615	3,597	27,212	
計	1,563,026	1,408,200	2,971,226	

()は統合による附属図書館又は教養分館所蔵分以内数

○ 平成5年度年間受入： 図書冊数・雑誌種類数

部 局	図書受入冊数							雑誌受入種類数						
	和 書			洋 書			合計	和 雑 誌			洋 雑 誌			合計
	購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他		購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他	
附属図書館	5,440	1,467	18,643	3,264	683	20,577	50,074	421	2,426	1	680	468	1	3,997
法学部	(1,333)	(94)	(768)	(1,720)	(120)	(1,414)	(5,449)	(150)	(336)	(0)	(338)	(49)	(0)	(873)
経済学部	(1,469)	(134)	(100)	(1,102)	(8)	(163)	(2,976)	(138)	(555)	(1)	(265)	(45)	(1)	(1,005)
教養分館①	3,351	17	327	2,289	716	611	7,311	236	415	0	306	13	0	970
言語文化部	(1,341)	(0)	(19)	(2,153)	(32)	(182)	(3,727)	(21)	(43)	(0)	(175)	(2)	(0)	(241)
文学部	2,458	60	0	3,211	574	0	6,303	155	840	0	729	34	0	1,758
教育学部	2,062	0	472	485	0	224	3,243	525	707	10	180	11	1	1,434
経済学部	0	0	1,563	0	0	532	2,095	—	—	—	—	—	—	—
理学部②	444	6	152	1,020	126	2,130	3,878	147	268	0	733	345	0	1,493
医学部③	458	328	606	367	35	1,398	3,192	281	677	0	717	179	4	1,858
歯学部④	415	21	257	74	9	475	1,251	150	176	0	220	50	4	600
薬学部⑤	135	0	39	47	0	403	624	39	53	0	125	5	0	222
工学部	895	47	551	639	9	1,701	3,842	316	543	3	844	124	0	1,830
農学部⑥	1,593	61	1,459	578	30	2,562	6,283	357	1,012	7	611	368	0	2,355
獣医学部	114	28	21	124	21	206	514	47	56	0	120	90	1	314
水産学部	451	61	410	88	31	1,009	2,050	214	703	3	277	497	1	1,695
地球環境科学研究科	259	18	99	117	2	254	749	43	84	0	115	36	0	278
低温科学研究所	41	9	215	61	8	346	680	22	390	2	102	235	1	752
電子科学研究所	198	0	32	144	0	348	722	27	120	0	110	10	0	267
免疫科学研究所	6	0	0	21	0	202	229	7	102	0	51	0	1	161
触媒化学研究センター	10	0	9	79	9	173	280	17	1	0	42	12	0	72
スラブ研究センター	96	0	50	4,394	9	455	5,004	9	22	2	393	79	1	506
大型計算機センター	0	0	0	141	0	0	141	36	33	2	52	0	0	123
事務局⑦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療技術短期大学	691	6	226	98	0	46	1,067	142	192	1	65	3	3	406
合 計	19,117	2,129	25,131	17,241	2,262	33,652	99,532	3,191	8,820	31	6,472	2,559	18	21,091

部局注 ①教養部を含む、②情報処理教育センター、実験生物センターを含む、③附属病院、アイソトープ総合センターを含む、④附属病院を含む、⑤機器分析センターを含む、⑥附属農場、附属演習林を含む、⑦保健管理センターを含む

注 1. () は統合による附属図書館または教養分館所蔵分で内数
 2. 「その他」は雑誌を製本として受け入れたもの及び管理換えで増となったもの一図書館の例では自然系バックナンバーのものとスラブ研からの「管理換」一がほとんどである。

○ 平成5年度 附属図書館利用数

(開館 280 日)

区 分 部 局		開架閲覧室		書 庫		参 考 閲覧室	北 方 資料室	語 学 演習室	
		館 外 貸 出		館内閲覧 冊 数	館 外 貸 出				
		人 数	冊 数		人 数	冊 数	利用者数	利用者数	利用者数
学 生 所 属 部 局	文学部	3,380	6,206	10,512	1,114	1,939	767	144	374
	教育学部	774	1,616		202	345	61	44	
	法学部	4,227	7,605		1,759	2,704	119	44	
	経済学部	2,014	3,640		527	815	83	28	
	理学部	3,067	5,675		87	103	50	10	
	医学部	258	521		5	6	43	3	
	歯学部	375	732		2	2	65	8	
	薬学部	466	877		5	5	9	2	
	工学部	1,464	2,848		67	99	32	43	
	農学部	1,261	2,584		87	131	22	50	
	獣医学部	85	185		1	1	2	0	
	水産学部	7	18		0	0	2	2	
	教養部	6,572	12,850		628	880	198	219	
研究所ほか	45	96	19	50	6	18			
医療短期大	516	1,075	27	37	14	2			

区 分 部 局		開架閲覧室		書 庫		参 考 閲覧室	北 方 資料室	語 学 演習室	
		館 外 貸 出		館内閲覧 冊 数	館 外 貸 出				
		人 数	冊 数		人 数	冊 数	利用者数	利用者数	利用者数
院 生 教 官 職 員 学外利用者 (含放送大学)	院 生	4,024	7,943	2,247	5,486	17,881	1,627	449	89
	教 官	684	1,297		2,933	9,759		240	
	職 員	1,165	2,807		476	1,068		223	
	学外利用者 (含放送大学)	607	1,383	3,023	649	1,585	352	1,123	6
利用者合計		30,991	—	7,869	14,074	—	3,452	2,652	469
利用冊数合計		—	59,958	15,782	—	37,410	891 ¹⁾	2,047	481

注 1) 国連資料・OECD資料・EC資料・カナダ政府資料及び参考図書(一夜貸出)

2) 参考閲覧室の学内利用者は学生欄にまとめた。

3) 参考閲覧室, 北方資料室の開室は245日

○ 平成5年度 文献複写・相互利用統計

I. 国内： 附属図書館相互利用掛を経由して学外へ依頼した件数 (国立・私立とも)

申込部局	附属図書館	文学部	法学部	教育学部	経済学部	理学部	医学部	歯学部	農学部	獣医学部	医部	
件数	23	31	286	0	145	13	0	0	4	1		
申込部局	言語文化部	地球環境科学	低温研	電子研	触媒研	免疫研	医療大	工薬	スラ研	大型	合計	
件数	54	260	0	7	41	20	1	2	0	11	2	901

II. 国内： ILLシステム (大学図書館間相互貸借システム) で各部局図書館が受付・依頼を行った件数

部局	附属図書館	文	教	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	低温	電子	医短	合計
受付	1,726	234	75	0	1,312	1,927	377	401	1,103	1,250	321	694	114	116	82	9,732
依頼	748	265	62	0	845	2,229	275	472	1,126	667	476	651	43	170	26	8,055

III. 国外への依頼件数 (参考調査掛)

英	米	独	オランダ	C I S	イタリア	フランス	カナダ	中国	その他	合計
125	139	49	6	40	1	23	5	1	40	429

IV. 図書館間相互貸借 (相互利用掛) ○他館への貸出 1,089 冊 ○他館からの借用 335 冊

V. 附属図書館電子複写・マイクロ業務実績 (館内分を除く) (相互利用掛)

複写室 申込者	件数 (件)	複写論文数 (点)	処理枚数・コマ数					
			総数	内 訳				
				電子複写 (枚)	マイクロ フィルム (コマ)	マイクロ フィッシュ (枚)	引伸焼付 (枚)	リーダー プリンター (枚)
学内者	165	240	1,853	913	0	0	0	940
学外者	3,155	4,438	49,201	47,705	0	0	0	1,496
合計	3,320	4,678	51,054	48,618	0	0	0	2,436

VI. 参考質問 (参考調査掛)

所在調査	書誌調査	事項調査	利用指導	情報検索	合計
2,292	1,729	1,260	1,452	301	7,034

○ 平成5年度 教養分館利用数

(開館 235 日)

区 分 部 局	開架図書室 (館外貸出)		語学演習室 (館内利用)		ビデオ視聴覚室 (館内利用)	
	人 数	冊 数	人 数	冊 数	人 数	巻 数
文 学 部	1,064	1,879	23	26	39	38
教 育 学 部	195	338	16	19	41	38
法 学 部	410	674	62	65	81	83
経 済 学 部	290	492	35	44	42	51
理 学 部	1,838	3,097	113	123	49	73
医 学 部	256	445	38	50	61	69
歯 学 部	88	144	3	3	6	6
薬 学 部	212	349	0	0	11	16
工 学 部	1,389	2,309	37	37	140	160
農 学 部	330	620	26	26	70	91
獣 医 学 部	138	256	9	11	12	16
水 産 学 部	5	12	0	0	0	0
教 養 部	18,837	30,812	612	656	2,498	2,673
研 究 所 ほか	7	15	0	0	0	0
医 療 短 期 大	169	282	1	1	19	21
放 送 大 学	16	33	0	0	0	0
院 生	1,170	1,933	53	54	80	98
教 官	391	750	3	3	16	17
職 員	850	1,319	3	3	16	16
学 外 利 用 者	43	79	16	18	117	154
合 計	27,698	45,838	1,050	1,139	3,298	3,620

館外貸出・分類別

(教養分館)

000 総 記	7,413	500 純粹科学	16,577	雑 誌	517
100 哲 学	2,314	600 応用科学	2,336	【そ の 他	64
200 宗 教	302	700 芸 術	1,378		
300 社 会 学	3,472	800 文 学	6,554	合 計	45,838
400 語 学	729	900 地理・歴史	4,182		

○ 平成5年度 HINES 及び電話回線経由の CLARK 利用統計

	接 続 回 数	接 続 時 間
年 間 合 計	10,327 回	3,021,257 秒
1 日 あたり	37.5 回/日	10,986 秒/日
接続1回あたり		292 秒/回
	年間利用日数	275 日

注: ラインモード(2回線), 画面モード(2回線), 及び電話回線(1回線)の合計です。

○ 平成5年度 CLARK 統計

端 末 機 設 置		図書データベース登録数				学術情報 センター への所蔵 登録累積	雑誌データベース登録数			システムを 使用しての貸出		検索1回数台平均 ③	
部 局 名 ①	台数	年間増加	累 計				所蔵雑誌 純誌数	受入雑誌 延べ誌数	製本単位	研究室	一般貸出	利用者数	業務用④
			合 計	和 書	洋 書								
附属図書館	24	19,603	324,050	186,664	137,386	22,356	2,299	282,993	36,687	91,851	50,288	10,501	
週及入力	7	31,907	② —	—	—	—	—	—	—	—	—	762	
法学部	1	☆	☆	☆	☆	☆	907	☆	10,957	—	11,587	—	
スラブ研	2	2,396	2,363	209	2,154	☆	503	☆	2,647	—	—	4,082	
経済学部	2	☆	☆	☆	☆	1,280	1,023	850	☆	—	13,823	19,532	
教養分館	9	7,163	147,566	103,501	44,065	1,348	974	12,595	10,386	45,377	35,987	6,748	
教養部	1	△	△	△	△	△	△	△	7,191	—	3,150	—	
言語文化	1	△	△	△	△	△	△	△	35,790	—	3,150	—	
文学部	6	4,001	99,618	43,142	56,476	3,571	1,767	26,905	126,349	—	16,303	7,806	
教育学部	3	2,453	46,560	38,014	8,546	2,593	1,484	6,298	24,192	—	11,654	7,898	
理学部	5	1,604	38,714	14,860	23,854	4,153	1,745	15,219	45,560	—	18,345	6,032	
医学部	6	2,299	46,568	28,034	18,534	4,796	2,211	19,341	17,510	—	19,215	8,003	
歯学部	2	561	12,220	8,595	3,625	952	683	6,255	18,484	—	7,242	7,241	
薬学部	2	160	5,389	4,072	1,317	409	248	4,949	1,937	—	13,110	4,588	
工学部	7	1,438	80,837	59,147	21,690	4,307	2,333	21,228	111,575	—	30,289	3,295	
農学部	7	1,664	61,874	46,997	14,877	5,732	2,540	14,566	20	—	23,099	5,830	
獣医学部	2	301	5,527	2,587	2,940	1,071	344	2,552	5,225	—	1,736	3,166	
水産学部	4	827	12,737	11,553	1,184	3,631	1,888	11,372	6,527	—	10,754	5,943	
地球環境	2	422	9,579	7,238	2,341	467	312	4,701	14,682	—	13,056	2,949	
低温研	1	145	3,329	2,090	1,239	1,247	756	4,489	299	—	—	8,681	
電子研	2	423	7,184	3,705	3,479	518	162	3,827	5,462	—	7,861	2,143	
触媒研	1	105	3,522	1,025	2,497	228	76	1,993	16	—	—	2,241	
免疫研	1	6	1,570	754	816	131	74	1,718	1,869	—	—	692	
医療短大	2	882	20,961	18,366	2,595	480	408	3,886	6,212	—	12,533	4,715	
教育大	12	30,441	131,508	117,287	14,221	11,788	—	—	131,612	—	—	1,317	
合 計	112 台	108,801 冊	1,061,676 冊	697,840 冊	363,836 冊	612,634 件	48,091誌 89,805誌	22,737誌 15,587誌	445,737 冊	621,189 冊	137,228 冊	25,508 回	6,478 回
											総合計 1,374,187回		

注記 ①部局名=附属図書館には大計センターの数を含む。☆欄は附属図書館に、△欄は教養分館に含まれる。スラブ研、経済学部で処理した資料は附属図書館に移管される。②週及入力の累計572,805冊は各部局の累計に含まれる。③蔵書検索画面で検索語を入力し、実行キーを押した回数。④業務用端末とは、利用者専用端末以外の端末を指す。

◆ 貸出回数頻度順リスト：平成5年度

○本館・開架閲覧室

順位	書名	著者・編者等	出版社	回数	前回
1	ナニワ金融道 6巻	青木雄二	講談社	68	—
2	有機化学 4版 上中下	R. T. Morrisonほか	東京化学同人	52	3
3	銀河英雄伝説 10巻	田中芳樹	徳間書店	47	1
4	大学院有機化学	岩村秀ほか編	講談社	38	—
5	事務管理・不当利得・不法行為	星野英一ほか編	有斐閣	37	—
6	X線回折要論	カリティ	アグネ	36	6
6	会社法 2巻	LEC東京リーガルマインド法律総合研究 所司法試験部	LEC東京リーガルマインド	36	—
6	ワイルド・スワン 上・下	コン・チアン	講談社	36	—
9	生化学 改訂3版	L. Stryer	パイオメディックス	35	—
10	詳解力学演習	後藤憲一ほか編	共立出版	32	3
10	会社法入門 2版	前田庸	有斐閣	32	43
10	生化学 2巻 上・下	D. Voetほか	東京化学同人	32	36
13	ジュラシックパーク 上・下	マイクル・クライトン	早川書房	31	—
14	無機化学 4版	F. A. コットンほか	培風館	30	43
14	24人のピロー・ミリガン	ダニエル・キイス	早川書房	30	—
16	有機化学 5版	R. T. Morrisonほか	東京化学同人	28	5
17	基礎物理化学 上・下	ムーア	東京化学同人	27	33
18	生化学 上・下	L. Stryer	東京化学同人	25	2
18	大学演習熱学・統計力学	久保亮吾編	裳華房	25	36
18	金融の原理	浜田康行	北海道大学図書	25	—
18	憲法 2巻	野中俊彦ほか	有斐閣	25	—
22	演習量子力学	岡崎誠ほか	サイエンス社	24	—
22	新MS-DOS入門 3巻	林晴比古	日本ソフトバンク	24	—
22	Situational Japanese 5巻	O. Mizutaほか	Japan Times	24	—
22	国際政治：権力と平和 3巻	モーゲンソー	福村出版	24	—
26	一事不再利の研究	白取祐司	日本評論社	23	—
26	ミクロ経済学	伊藤元重	日本評論社	23	—
26	フーコーの振り子 上・下	ウンベルト・エーコ	文藝春秋	23	—
29	刑事訴訟法	平野龍一	有斐閣	22	—
29	物理化学 4版 上・下	W. J. Moore	東京化学同人	22	—
29	量子力学 上・下	シッフ	吉岡書店	22	—
29	物理化学 4版 上・下	G. M. Barrow	東京化学同人	22	22
29	地震・火山・岩石物性	宮村攝三編	共立出版	22	12
29	有機化学 3版 上中下	R. T. Morrisonほか	東京化学同人	22	—
35	近代世界システム 2巻	I. ウォーラーステイン	岩波書店	21	—
35	遺伝子の分子生物学 3版 上・下	J. D. Watsonほか	化学同人	21	43
35	現代の量子力学 上・下	J. J. Sakurai	吉岡書店	21	—
35	フィリピンの事典	鈴木静夫ほか編	同朋舎出版	21	—
39	統計力学	市村浩	裳華房	20	—
39	有機化学問題の解き方	A. D. Bakerほか	東京化学同人	20	—
39	固体物理学入門 5版 上・下	キッテル	丸善	20	17
39	発生生物学 上中下	スコット F. ギルバート	トッパン	20	—
43	有機化合物のスペクトルによる同定法 4版	R. M. Silversteinほか	東京化学同人	19	—
43	量子力学演習	小出昭一郎ほか	裳華房	19	—
43	複素関数	渡部隆一ほか	培風館	19	—
43	量子力学演習：シッフの問題解説	三枝寿勝ほか	吉岡書店	19	—

○分館・開架閲覧室

順位	書名	著者・編者等	出版社	回数	前回
1	有機化学 5版 上中下	R. T. Morrison ほか	東京化学同人	157	1
2	地球の歩き方 78巻	地球の歩き方編集室	ダイヤモンド ビック社	115	12
3	基礎物理化学 上・下	ムーア	東京化学同人	106	2
4	演習微分積分	寺田文行ほか	サイエンス社	86	4
5	大学演習微分学 コンパニオン	山口正栄ほか編	学術図書出版社	85	5
6	積分学 コンパニオン: 大学演習	外岡慶之助ほか	学術図書出版社	80	42
7	例解 熱・統計力学演習	戸田盛和ほか	岩波書店	76	—
8	例解電磁気学演習	長岡洋介ほか	岩波書店	61	—
9	新物理化学 上・下	W. J. Moore	東京化学同人	58	3
10	分析化学	長島弘三ほか	裳華房	57	19
11	力 学	戸田盛和	岩波書店	53	42
12	分析化学実験 増補新版	日本分析化学会 北海道支部編	化学同人	51	16
13	物理化学 上・下	P. W. アトキンス	東京化学同人	51	8
14	電場と磁場	長岡洋介	岩波書店	50	11
14	物理のための数学	和達三樹	岩波書店	50	—
14	詳解物理学演習	後藤憲一ほか編	共立出版	50	7
17	例解 物理数学演習	和達三樹	岩波書店	49	—
17	憲 法	野中俊彦ほか	有斐閣	49	—
19	基本法則と応用		岩波書店	48	—
19	細胞の分子生物学 2版	B. Alberts ほか	教育社	48	5
19	24人のピリー・ミリガン	ダニエル・キイス	早川書房	48	—
22	熱・統計力学	戸田盛和	岩波書店	45	—
23	例解力学演習	戸田盛和ほか	岩波書店	44	—
24	分析化学	太秦康光	産業図書	43	47
24	やさしい化学熱力学	B. H. メイアン	化学同人	43	—
26	原子と量子力学	中島貞雄	岩波書店	42	—
26	例解量子力学演習	中島貞雄ほか	岩波書店	42	—
28	無機化学	B. E. Douglas ほか	東京化学同人	39	—
28	血 族	シドニイ・シュルダン	アカデミー出版	39	—
30	大学演習熱学・統計力学	久保亮吾編	裳華房	38	21
30	ノルウェーの森	村上春樹	講談社	38	37
30	明け方の夢	シドニイ・シュルダン	アカデミー出版	38	—
33	NHK電子立国日本の自叙伝	相田洋	日本放送協会	37	—
33	ワイルド・スワン	コン・チアン	講談社	37	—
35	分析化学	中埜邦夫ほか編	丸善	36	21
35	演習応用解析	州之内治男ほか	サイエンス社	36	47
37	ウェイド有機化学	L. G. Wade, Jr.	丸善	35	10
38	微分積分学: 詳説演習	壺江誠夫ほか	培風館	34	—
39	解析力学	小出昭一郎	岩波書店	33	—
39	近代中国	佐伯有一	講談社	33	—
41	分析化学反応の基礎: 演習と実験	日本分析化学会 北海道支部編	培風館	32	35
42	酸と塩基	田中元治	裳華房	31	—
42	物理化学	G. M. Barrow	東京化学同人	31	25
42	フェルミ熱力学	エンリコ・フェルミ	三省堂	31	—
42	明日があるなら	シドニイ・シュルダン	アカデミー出版	31	37
46	量子力学	高田健次郎	朝倉書店	30	—
47	アルジャーノンに花束を 改訂版	ダニエル・キイス	早川書房	29	—
48	詳解物理学演習	後藤憲一ほか編	共立出版	28	25
48	知覚・認知	柿崎祐一ほか編	有斐閣	28	—
48	遺伝子科学	石川辰夫	東京大学出版会	28	—

◆ 図書館委員会委員名簿及び教養分館委員名簿

○ 図書館委員会委員名簿

平成6年5月1日現在

部 局	官 職	氏 名	任 期	部 局	官 職	氏 名	任 期
	館 長	三本木 孝	平成8.3.31	獣医学部	教 授	神 谷 正 男	平成7.3.31
	分館長	片 桐 千 明	平成7.3.31	水産学部	〃	太 田 亨	平成8.4.30
	事務局長	岡 林 隆	平成4.7.1~	教養部	〃	播磨屋 敏 生	平成7.3.31
	学生部長	深 沢 和 三	平成7.3.31	〃	〃	築 田 憲 之	平成8.3.31
文学部	教 授	栗生澤 猛 夫	平成8.3.31	言語文化	〃	藤 家 壮 一	平成8.4.30
教育学部	〃	横 湯 園 子	平成8.3.31	環境研	〃	西 則 雄	平成7.5.27
法学部	〃	常 本 照 樹	平成8.3.31	低温研	〃	芦 田 正 明	平成7.3.31
経済学部	〃	石 坂 昭 雄	平成7.3.31	電子研	〃	狩 野 猛	平成6.9.30
理学部	〃	岡 田 廣	平成7.3.31	免疫研	〃	上 出 利 光	平成8.3.31
医学部	〃	齋 藤 秀 哉	平成8.3.31	医 病	〃	松 田 英 彦	平成6.9.15
歯学部	〃	小 口 春 久	平成8.3.31	触媒研	〃	林 民 生	平成8.3.31
薬学部	助教授	横 井 毅	平成8.3.31	スラブ研	〃	原 暉 之	平成7.3.31
工学部	教 授	田 頭 博 昭	平成7.9.30	医療短大	〃	鈴 木 重 統	平成7.3.31
農学部	〃	近 藤 敬 治	平成7.3.31				

○ 平成6年度教養分館委員会委員名簿

平成6年4月1日現在

部 局	官 職	氏 名	任 期	部 局	官 職	氏 名	任 期
理学部 (生物)	分館長	片 桐 千 明	平成7.3.31	理学部 (科学史)	教 授	杉 山 滋 郎	平成7.3.31
文学部 (基礎文化)	助教授	高 幣 秀 知	平成8.3.31	言語文化部 (英語)	〃	築 田 憲 之	平成8.3.31
教育学部 (体育)	〃	大 櫃 敬 史	平成7.3.31	言語文学部 (古典語)	〃	田 中 利 光	平成8.3.31
理学部 (地球物理)	教 授	播磨屋 敏 生	平成7.3.31				

◆ 人事往来 (4月1日付け)

併 任

附属図書館長

三本木 孝 理学部教授 (8.3.31まで)

〔北海道大学辞令〕

○ 掛長発令

東 重 俊 歯学部総務課図書掛長 (北見工業大学附属図書館学術情報掛長)

星 賀 隆 工学部総務課図書整理掛長 (工学部総務課図書閲覧掛長)

三 浦 智 工学部総務課図書閲覧掛長 (附属図書館情報サービス課参考調査掛)

○ 転 出

紙 屋 国 男 北見工業大学附属図書館学術情報掛長 (水産学部図書掛)

金 澤 文 雄 北見工業大学施設課企画掛長 (附属図書館情報管理課会計掛会計主任)

○ 定年退職

船 木 敏 美 歯学部総務課図書掛長

榆 蔭 (北大図書館報)

庄 司 重 陽 工学部総務課図書閲覧掛長

○主任発令

西 田 久美子 附属図書館情報管理課庶務掛人事主任 (旭川医科大学総務部庶務課職員係服務主任)
山 田 重 幸 附属図書館情報管理課会計掛会計主任 (農学部経理掛予算運用主任)
長 尾 憲 子 農学部附属演習林庶務掛庶務主任 (附属図書館情報管理課庶務掛人事主任)

○掛員発令

澤 田 浩 一 附属図書館情報管理課会計掛 (国立日高少年自然の家事業課業務係事業推進班)
金 子 敏 附属図書館情報管理課図書受入掛 (附属図書館情報サービス課相互利用掛)
田 中 健太郎 附属図書館情報サービス課参考調査掛 (附属図書館情報システム課情報処理掛)
佐々木 圭 附属図書館情報サービス課相互利用掛 (農学部図書整理掛)
小 川 聡 附属図書館情報サービス課教養分館情報サービス掛 (旭川医科大学教務部図書課情報管理係)
砂 塚 孝 子 附属図書館情報システム課学術情報掛 (山梨医科大学業務部施設課電気係)
菊 池 健 二 教育学部図書掛 (経済学部図書掛)
水 野 嘉 永 経済学部庶務掛 (附属図書館情報管理課会計掛)
梶 原 茂 寿 理学部図書掛 (電子科学研究所会計掛)
福盛田 勉 水産学部図書掛 (附属図書館情報サービス課教養分館情報サービス掛)
山 田 良 江 電子科学研究所図書室 (教育学部図書掛)
平 松 麗 子 触媒化学研究センター図書室 (電子科学研究所図書室)

○転出

松 本 禮 一 旭川医科大学教務部図書課情報管理係 (附属図書館情報管理課図書受入掛)

○定年退職

鈴 木 國 男 附属図書館情報サービス課教養分館情報サービス掛
大 垣 雅 子 附属図書館情報システム課目録情報掛
田 村 善 徳 農学部図書閲覧掛
金 子 美弥子 水産学部図書掛
村 木 あさ子 触媒化学研究センター図書室

○採用

川 村 幸 附属図書館情報サービス課教養分館情報サービス掛
山 家 尚 子 附属図書館情報システム課目録情報掛
村 田 邦 恵 農学部図書整理掛
結 城 憲 司 農学部図書閲覧掛

北海道大学附属図書館報「榆蔭」(ゆいん) 通号90号

平成6年(1994年)7月20日発行 発行人 附属図書館事務部長 遠藤勝久

編集事務 山本幾夫・阿部勝義・岡田 潔・菅原英一・佐藤清一・金子 敏・
岸本一志・三橋 修・松尾博朋・伊藤啓子・土田京子・栄森義晴

発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北区北8条西5丁目 Tel. 706-2967

印刷所 文栄堂印刷所 札幌市中央区北2条東12丁目 Tel. 231-5560・5561